

兵庫県南部地震

托鉢で集めた浄財贈る

中外日報社に寄託、日赤へ

臨済宗濃尾六僧堂と岐阜の青年僧ら

愛知・岐阜両県下にある臨済宗の専門道場六カ寺と岐阜の妙心寺派青年僧の会が十七日、兵庫県南部地震被災者救援の義援金百二十三万五千五百五十円を中外日報社に寄託した。僧堂の雲水らが地元で托鉢して集めた浄財で、小社社員有志の募金とともに日本赤十字京都支部に贈られ、被災者のための医療活動に役立てられることになった。

被災者救援托鉢を行なったのは、愛知県の徳源僧堂（嶺興嶽師家、名古屋市）、瑞泉僧堂（小倉宗俊師家、犬山市）、妙興僧堂（稲垣宗久師家、一宮市）と岐阜県の瑞龍僧堂（清田保南師家、岐阜市）、正眼僧堂（山川宗玄師家、美濃加茂市）＝以上妙心寺派と虎溪山僧堂（中村文峰師家、多治見市）＝南禅寺派＝の六僧堂、並びに妙心寺派の岐阜西教区青年僧の会（会長＝久司宗浩少林寺住職）。

毎年恒例の濃尾六カ僧堂師家の会合があった際、被災者支援の一助に、と実施を決めたもの。妙心寺派、南禅寺派もそれぞれ被災者救援の募金活動などを展開しているが、これとは別に、五日から十五日にかけて各僧堂の地元で托鉢を行ない、岐阜西教区青年僧が岐阜市内で托鉢して得た喜捨とともに一括し、中外日報社に寄託した。

濃尾地区の人々の善意の結晶である百二十三万五千五百五十円は十七日、六カ僧堂の代表の小倉瑞泉僧堂師家が中外日報社に持参した。さらに、小倉師家は小社の義援金募財担当者に同行して、京都市東山区の日本赤十字社京都府支部を訪問。同支部の谷勝利事務局長に「ささやかですが被災者の医療活動に役立てて下さい」と浄財を手渡し、谷事務局長から被災地の現況や日赤の活動について説明を聞いた。

谷事務局長に義援金を手渡す小倉師家(左)〔写真は省略〕

西宮市で炊き出し

高野町の有志らと救援に

高野山三宝院

高野山真言宗三宝院（和歌山県伊都郡高野町高野山）の飛鷹全隆住職と同寺関係者、それに高野町で酒屋・食堂・法衣店など様々な業種の人たちでつくる高野山蓮華谷十七会のメンバーによる一般ボランティア、高野山大学の学生のボランティア、西宮市周辺の寺院関係者、本山職員らが中心となり九日、西宮市の上ヶ原小学校で兵庫県南部地震の被災者のために炊き出しを行なった。

同小学校のある上ヶ原は六甲山系の甲山のふもとの小高い台地で、近くに仁川が流れ住宅地として発展してきた所。今回の地震では、民家の倒壊が著しかったが、被災地の中でもとくに救助が遅れたと言われ、仁川の山崩れが象徴するように学生をはじめとした死傷者も多数出た。

今回の震災に対して、高野町の人たちと寺院が協力するボランティアは初めてだったが、準備を進める間もなく

当日に臨んだという。炊き出しの内容は粕汁とご飯、それにリンゴが約四百人分で、粕汁に入れた十匹分の鮭は北海道砂川市の佐藤弘念弘法寺住職から送ってきたもの。当日は風が強く寒かったため、午後五時から配り始めた粕汁はあっという間に無くなった。

今回のボランティアに参加した宗団の地元寺院は理性院（神戸市東灘区）、鷲林寺（西宮市鷲林寺町）、西光院（宝塚市小林）、東光寺（西宮市門戸西）、西広寺（西宮市段上町）、聖天寺（西宮市上甲子園）など。これらの地元寺院は理性院の全壊・全焼までは行かないまでも、全て何らかの被害があるが、連日のようにボランティアを続けている。

三宝院の飛鷹氏は地震直後の一月十七、十八日にすでに西宮・芦屋・神戸に入り、十九日には淡路島に渡って被災した関係寺院等を見舞っている。さらに、同月の二十一日には弟子を連れて京都・東寺の初弘法で義援金の托鉢をするなど独自の救援活動を進めてきた。

十七会と合同の炊き出しは、上ヶ原小学校の後も長田区の菅原寺（十三日）や御影公園（二十三日）などでも行なった。

上ヶ原小学校で十七会の人たちから粕汁をもらう子供【写真は省略】

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)

戻る